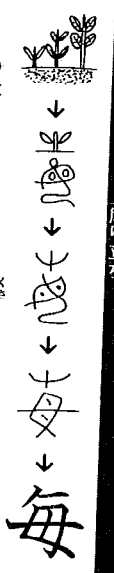


# 毎

三年 筆順 6  
クン オン マイ

成り立ち



もとの字は「母」で、「草(艸)」のかたちをあらわした「艸(艸)」と、「母」とをくみあわせてつくった字です。「母」がかなりやくかされ「母」になりました。「草」が、「母」である「土」のめぐみをつけて、見る「たびごと」に、「いつも」せいちようしていることから、「たびごと」に、「いつも」といういみをあらわしたものです。

使い方

- ▽わたしは、毎日、よるねるまえに、えにつきをつけています。
  - ▽きょうのやきゅうのしあいでは、ぼくのチームは毎回とくてんしました。
  - ▽毎月いちど、たいじゅうとしんちようを、はかります。
  - ▽毎晩、おかあさんが、おとぎばなしを、はなしてくれました。
  - ▽みんなで、毎春、山にぜんまいや、わらびなどを、つみにいきます。
- 熟語例
- ▽毎日(くる日もくる日も。いつの日も。)
  - ▽毎回(どの回もどの回も。ぜんぶの回)
  - ▽毎月(くる月もくる月も。)
  - ▽毎年(どの年もどの年も。「毎年」ともよみます。)
  - ▽毎晩(どの晩もどの晩も。)
  - ▽毎春(どの春もどの春も。毎年毎年の春)
  - ▽毎毎(いつもいつも。「毎毎のことだからおどろかない」などといえます。)

# 妹

三年 筆順 8  
クン オン マイ  
いもうと  
女 女 姉 妹

成り立ち



「木」が「わかい」あたらしいえだをつけたかたちの「未」と「女」とをくみあわせた字で、「わかい」女の子をあらわした字です。

「わかい女の子」といういみの字ですが、いまでは女の子ようだのうち、じぶんより「年下の女の子」のいみにつかわれ、「いもうと」とよみます。

「妹の「未」は、「未熟」「未成年」「未婚」の意味で、「乙女」くらしいの意味の字である。万葉集には、恋人を「いも」とよび、「妹」の字を当てている。「いもうと」は「妹人」の意である。

未の音はミとマイとある。味、魅はミで、妹はマイであるが、iがイともアイとも発音されるため。」

使い方

- ▽ぼくには妹がいます。まだ赤ちゃんや、ないたり、おっぱいをのんだり、ねむったりしています。
  - ▽あるところに、二人姉妹がいました。いちばん上のむすめは九つ、すぐ下の妹は七つ、いちばん下の妹はまだ四つでした。
- 熟語例
- ▽姉妹(姉あねいもうとと妹いもうと) 女のきょうだい)
  - ▽弟妹(弟おとうとと妹いもうと)。あまり、はなしことばでは、つかわれません。ものがたりなどで、つかいます。例「あるところに、三人きょうだいがありました。二人は男の子で、一人は女の子でした。いちばん上の男の子は、二人の弟妹を、たいへんかわいがりました」など)
  - ▽妹娘(二人いる娘のうち、妹いもうとのほう)
  - ▽実妹(実じつの妹妹)。おなじ、おとうさんとおかあさんから生まれた妹)